



神沢 美桜 (かんざわ みお) 七国小 4年生

作品名：もうどう犬について思ったこと

図 書：今日からはあなたの盲導犬

「無事にもどりました。」

わたしは、この言葉が強く心に残りました。理由は目の見えない大石さんという女せいが、もうどう犬の卒業試験を銀ざの大通りの中で、訓練を終えたばかりのもうどう犬セロシアと、無事に歩いて帰ってこられたからです。

もうどう犬は人間の言葉を覚えて正しく動くなどのきびしい訓練をたくさんやります。

ではなぜ犬たちはがんばってくれるのでしょうか。そのようなぎ問がわたしの中にわきました。そのまま読み進めていくと、人の役に立つことがもうどう犬にとって大きな喜びになると書いてあったので、「えー、そうなんだ。」と言ってしまいました。もうどう犬は、小さいころ人間が家族の一員として毎日散歩をさせたり、いっしょに旅行に行くなどして、大切に育てられてきたから、つらい訓練にもたえられるのだと思います。

また、もうどう犬になるための最終テストの目かくし歩行をしているところも、心に残りました。おどろいたことは、指どう員がアイマスクをして街を歩くことです。命に関わるほどあぶないこともあるのに、完全に安全とは言えないもうどう犬を信じてテストを行うのは、わたしにはできないと思いました。

わたしがもし町でセロシアのようなもうどう犬を見かけたら、かまったりおかしなどをあげたりせずに、「なにか、お手伝いしましょうか。」などと声をかけ、目の見えない人の手助けができるようになればいいなと思います。

この本を読んだのは、わたしは犬が大好きで、しょう来犬に関わる仕事がしたいからです。でももうどう犬の仕事は犬が中心ではなくて、人と向き合う仕事でもあることがわかりました。

このような発見がたくさんある本なので、おもしろくて、とてもためになりました。これからも

「そうなんだ。」

とか、

「知らなかった。」

とか、

「もっと調べてみたい。」

という気持ちを大切に、本からさまざまなひみつや発想をもらっていきたいです。